Nov. 1933.

20. Carpinus Seemaniana Diels 湖北
21. Carpinus kwetlingensis Hu 貴州
22. Carpinus Handelii Rehder 湖南
23. Carpinus Monbeigiana Handel-Mazzetti 雲南

福井県編纂：一福井県生物目録（昭和八年十月福井県発行）
要上陸下には今秋福井県下に行われた陸軍特務大演習御統監の為行幸あらせられ、福井県においては県下の小中学校の職員、児童、生徒六千八千五百餘名を総動員して県下の生物及び植物の標本を集めその一部を天覧に供し奉った。本編はこれを記念して県府より出版させられたもので、今回得た標本中植物、昆虫及び貝類の目録である。全編を三部に分ち、植物部は田代善太郎氏、昆虫部は山田保治氏、貝類部は黒田徳美氏の指導によるものである。

今植物之部を通覧するに、羊歯植物以上の高等植物約1680種を日本植物總覧にみる順序に配列し、学名（主として日本植物總覧による）、和名及び標本採取地を列挙し、なお特定の記号を以て嶺北地方に於てのみ採集せられたるもの、嶺南地方に於てのみ採集せられたるものを、兩者に於て採取せられたるもの及び、嶺南地方中特別に若狭地方に於てのみ採取せられたるものを区別して県下に於く分る分布の状態を各種ごとに示してある。

短時日に仕上げられたものであるからならば研究を要する部分もあるであろうが、福井県のフローラの大體を知るには参考となる目録である。（田川基二）


地質時代に於ける海産珪藻類の地理的分布に関する我々の知識は頗る不完全である。諸学者は珪藻類の出現は地質学的に甚だ古く古生代に始まるものと考えて来たが、最近 J. Pia の研究によれば、白亜紀以前に産したといふことは疑問であって中生代に至るそれを認めるには確るべき材料に乏しいと述べてある。ともかく珪藻類の最も豊富なのは第三紀であつて珪藻土なる化石堆積物は此時代に沈積したものである。其繁殖期は漸新世から中新生にかけての期間である。

第三紀に於ける珪藻類の地理的分布に就いて興味があるのは、ハンガリー及びニュージーランドに同様な種類が存し、また日本及び北米 Maryland においても同じ
事実が発現されたことである。かような分布が北時代の陸圏・水圏の位置と密接なる関係を有することは云ふまでもないが、従来之に適切なる解釈を異べることは困難であった。著者は之を WEGENER の大陸移動説によって説明せんと試みてある。凡そ海産珪藻類の大部分は Centricae に属し周より運動力を有しないから、共移動は全く海流の主に主に從ふのみである。前第三紀には上記の如き分布を生せしめる海流が存在したと考へなければならない。WEGENER 説の原理は、大陸塊は古より現在の如きものであつて唯共相対的位置を異にするのみであるとする。石炭紀には現今の大陸面を発合として全体として一大陸塊をなし、而かも共相當広範囲に亘って浅海であったと考へられる。此一大陸塊に破壊が発生し、侏羅紀初期に先づ現今の洋面が印度及びアフリカと分離し、白亜紀には南アメリカ及びアフリカ間の隙際にも既拡大して遂に分離し、其後印度がアフリカ東岸から離れた。

南米及びアフリカ間の隙際拡大に伴ふ南米大陸の西進運動はニュージーランド・澳洲附近の海水の流動を促し、附近の海洋生物は此海流に乗つて北へ北へと進まれた。アフリカ西岸を北上する此海流は海岸線の影響により北東に進路を求め、當時浅海であった中 {.諸諸之を浸した。＝ニュージーランドの第三紀に出る珪藻が中盤のそれと同一系統に属することは之によって理解される。専門家学問の表によってもニュージーランドの堆積物はハングリーのものよりも古いことを示してゐる。

次に支那及び日本は印度を牽引してアフリカ東岸との隙際を大ならしめ、之に向つて海流が南方から移動した。此海流はアフリカの東端隅 Kenya 附近の大陸棚に遭遇したのであるが、此陸棚は位置の関係上生物の堆積には一の核心をなすものであるから一旦堆積が始まるや急激に其の量を増加する値である。實際 Mombasa の北方には多量の珪藻土を産する地方がある。共堆積物は著しく単純で殆ど Stephanodiscus astraea から成り時に Cocconeis を含んでゐる。之はニュージーランドでも同様である。

太平洋に於てはアメリカ陸塊の西進によって支那・日本の東岸とアメリカ西岸との距離は縮短し、又アンデス山系の前線に大深海を生じた。その爲に海水は緩漫乍ら定常的に移動し、且當時北極がアリューシャン群島附近にあった事をも併せ考へて、日本近海を発祥とする海流はカリフォルニア沿岸を南下しつつ南北両アメリカ大陸を結ぶ低地を通過して東岸に達したものの思はれる。日本に産する Triceratium multifrons の如きが北米東岸の Maryland にも出ること、T. tabellarium がアメリカ西方の Galapagos 島並びに共東岸 Barbados に産することは上述の海流を考へることによって説明し得る。
北米の南部低地を通じた海流はアフリカ及びブラジル間を北進する海流と出会って北西に進向をしめられ北米東海岸の諸州を浸した。両海流の会合地では種類の混済が起こると共に、ニュージーランドから遠ざかれるか否か種類は西方に進される Barbados に沈黙した。同じようにパナマを通じて北太平洋に近づいた種類も南方から東に向ふ海流に捕えられて洋州に沈静する結果となった。カリフィルニア及びモロニに就いて調査した所によると、カリフィルニア産の亜のうち共30％以上はもたモロニにも産することが知られた。又カリフィルニア産の Coscinodiscus は22種を算ずだがそのうちの14種はりすスペインにも産する。

Wegeiner の大陸移動説によって地質時代に於ける海産珪藻類の分布を適当に説明し得るようであるが、地質学のうちには Wegeiner の説に反對の態度をとる人がない。Irmschnher は植物分布の説明について、故小澤博士は絶滅爬の分布について何れも大陸移動説を利用してある。生物学或は古生物学上の此方面の研究を将来に期待されることが多いであろう。

石戸谷勉：一漢藥の研究第一編. (T. Ishidoya: Chinesische Drogen, Teil I, 1933)

古来東洋に行けば漢藥の生薬材料は如何なるものより構成させりかは一々共漢名を附して生薬者間に行けるれども、材料は植物界の一部に過ぎざるを以て之を同定するには於て至難の業とせられたり。然らに著者石戸谷氏は元来林学者にして植物学者の礎を築きし人にしてあらず、其に於て朝鮮林業試験場教授として朝鮮の林業に盡くし所あり。然に共技能を発揮せんとして俄に試験場を去るに到りは、當時所得の最も奇技とせし所あり。共後氏は素る所より観察をし薬の研究に没頭し俄に氏の専門を改めに到り永年刻苦精勤の限りを盡くしこれも未手を染めざる支那生薬研究を大成するに到り。氏が試験場を去る時関係せし者共時にして此研究を見て恐らくは啓然たらざるを得ざるべし、石戸谷氏の如きは實に古今稀なる人として激賞すると同時にして之が研究を援助せし藤澤際塍を以て有名なる故藤澤女吉翁に大なる敬意を抱はすんであるべからず。

第一編には全草本薬材三十二種、葉藥材十一品、花藥材十五品、種子果実藥材八十四品に就き記述せしものにて一々薬を以て之を説明するのみならず、各薬材には共之を検索すべき表を掲げ親切丁寧に極ましものある、之を以て今まで全く暗黒なりし生薬の検定に大光明をもたらし得るものと云ふべく又不朽の名著と云ふべし、著は単行本にして京都大学薬理学教室の出版物なり。

(Z. Y.)